

# 光といのち

第104号  
2017年1月1日発行

発行所  
真宗大谷派勝善寺  
〒299-2214

千葉県南房総市二部1344  
電話 0470-57-2657  
FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp  
URL http://syozenji.or.jp/  
住職 釋孝昌(井上孝昌)

## 謹賀新年

本年も皆さまと共に念仏申す生活を歩んでまいります。どうぞ宜しく願います。寺族一同

### 修正会

一月二日(月)  
十時〜十一時半

### 水島見一先生法話会

一日目 二月四日(土)  
十四時〜十六時四十分  
二日目 二月五日(日)  
十時〜十一時四十五分

特に、忙しい働き盛りの方に聞いていただきたいと考えています。詳細は、同封の別紙をご覧ください。



「あ、本当だ！」「仰せの通り！」という一言に出会う。それがそのまま救い師法話会。2016年11月19日 東京都港区善住寺

### 法話

仏法は、  
聴聞にきわまる  
ことなり。

『蓮如上人御一代記聞書』

### 報恩講(十一月十八日・十九日)

雨の降る中、大勢の方々がお参りくださいました。

担当地区の皆さん、世話人の皆さん、同朋会員の皆さん、準備や運営などにご苦勞様でした。おかげさまで報恩講を無事にお勤めできました。

しかし大事なことは、お一人おひとりが再出発すること。何に再出発するのか？

「念仏申す生活を」です。すなわち、礼拝の生活・聞法の生活・正信の生活です。

題字下の蓮如上人のお言葉は、このことを言っています。

生まれた意義と生きる喜びをいただく人生が、その生活により、私たちに啓(ひら)かれてくるのです。

その人生の再出発です。なお、今回の報恩講に寄せられた御懇志は、153名のご門徒の皆さまから73万8000円でした。その他、内陣莊嚴用お花、お供物用餅米もお寄せいただきました。

剰余金34万3826円は、聞法会の運営や仏具の購入などに使わせていただきます。

### 報恩講を支えた方々

### お磨き



11月15日(火)真鍮の仏具を磨きました。

(以下、氏名の敬称は略します。)

石井和夫 大胡登美子 大胡睦恵

川名登支江 川名信之 川名喜昭

黒川敦子 桜井朋子 高梨教夫

田中昭一 谷 英郎 富澤眞知子

臈居政男 中山郁夫 西山三保子

能重隆 蓮沼美栄 蓮沼典子

長谷川吉枝 坊守 住職



さて、今日の講題は「聞法即救済」です。一ヶ月ほど前に、ご住職から「報恩講での法話の講題を決めてほしい」というご連絡をいただきました。一旦電話を切って、ポツと浮かんだ言葉が「聞法即救済」でした。私の場合、考えて出た言葉は大体ダメ。出任せ、口から出るに任せるに限ります。

「聞法」とは、「聞仏説法」(『仏説無量寿経』「真宗聖典」10頁)。仏の言葉、真実の一言に遇うことです。根源的には「聞其名号」(『真宗聖典』11頁)、一声の念仏が聞こえる時です。ですから、法話鑑賞ではありません。私を言い当てる一言に遇うこと、および声が届くことです。聞法は救済の手段ではなく、即時の救済そのものです。歎異抄第一条に「とき、すなわち」とありますが、心の持ちようや心境の変化ではなく、「とき」、我が思いから解放される一瞬の到来が救済です。

報恩講は、親鸞聖人の法事です。であれば、親鸞聖人に遭遇いなおす時。親鸞聖人が出遇った世界に私も出遇わせていただく出発点をいただく。お仲間と教えの受けとめを確かめ合うチャンスです。親鸞聖人の言葉を通して、無数の先人がよび覚まされてきた歴史が浄土真宗です。人間の悪戦苦闘の歴史と別に浄土真宗があるわけではありません。

身近なところで言えば、こちら勝善寺様は当代のご住職が三十代とお聞きしています。すごいですね。天台宗の僧侶だった開基住職が、親鸞聖人のご門弟に出遇って宗旨替えをなさったそうです。ご門徒の皆さんは、この由来をもちろん知っていますよね。・黙っているけど、大丈夫ですか。(笑い)つまり初代住職は、天台宗を選び捨てて、本願念仏の教え、浄土真宗を選び取ったわけですよ。その決断が代々伝わってきたのですね。

皆さんの家でも、きつとそうですよ。「ウチは代々真宗門徒」とか「嫁に来たから」と言われるけど、やはり一人ひとりが選び直すことです。選び捨てることも可能です。真宗とは縁を断って、他所にお墓を移すことも可能です。お墓を移動してもご先祖は祟ったりしませんから。

それはともかく、「聞法即救済」という話しに戻します。聞法というと、講師の話しを聞くことを思いますが、実は一言に遇うことです。仏とは真実、私以上に私を見抜いた智慧です。その智慧が言葉となつて私に届く。親鸞聖人にとつては、よきひと法然上人の仰せが全部です。「ああ、本当だ!」「仰せの通り!」という一言に出遇う。それがそのまま救いです。信じる必要もなく、疑う余地もないほどあきらかに私を言い当てて下さる一言に遇う。それがそのまま救い、自分の思いが破られる時です。ですからお寺に通つていけば、徐々に分かるということではありません。そのことを「聞法即救済」という講題を通して申し上げたくて、今日はこゝへ参りました。

この続きをお読みになりたい方は、お申し出ください。お送りします。

## 感話

### 無灯火運転

推進員 田村晋一氏



房日新聞の読者コーナーに「早めの点灯は運転者のマナー」という記事がありました。「日

没前後に高齢者の死亡事故が集中しているとのことだが、私もここに来て老いを感じる事が多くあり、中でも視力の低下も否めない事実である。なるべくその時間帯は運転を控えようときめているものの、外出時思いもかけず遅い時刻となり、日没近い時間帯の運転で、対向車の無灯火に遭遇することがある。そんなとき、その車の運転者は若者で、しっかりと良く見える目を維持している方なのだろうと想像する。しかし、運転免許証をいただいた時、早めの点灯について学んだはず。忘れずに守って欲しい」と。

私も昨年から視力が低下し、白内障の手術を行いました。道路交通法でトンネル内を通過する際には点灯が義務づけられています。しかし「しつかりと良く見える目を維持」していた以前は、私も無灯火運転であつたように思います。そして最近半数以上の車が、無灯火運転であるように感じています。自分の視力が低下したから、対向車の無灯火運転が非常に気になってきたのです。

各々が自分の判断でライトを点灯したりしなかったりしているわけですが、その根底には「自分さえ良ければ」という根性があるようです。

トンネル内で無灯火の対向車に危険を感じた時、フツと私の中にもあつたその根性に気づき驚きました。仏教により、偽りない私の根性を知らされたのです。

「最近法事は三回忌までしかしないところもあるとか、葬儀もしないところがある」と住職から聞きました。いろいろ苦労してこの九月に父の十三回忌をお勤めすることができました。法事は、仏教が伝わる大事な場だと聞いています。次世代に仏教を相続していく場だと思います。

前日準備とお逮夜



11月18日(金)準備を終え、逮夜(たいや)法要をお勤めしました。

青木敏夫 大胡登美子 明石圭司  
 明石義久 足達 崇 狩野昌也  
 川名ふじ子 川名喜昭 川名利幸  
 鈴木正一郎 田村徹夫  
 富澤真知子 鱸居政男 三堀清  
 能重美恵子 峯典子 吉本行男  
 前坊守坊守 副住職 住職

当日役割

司会進行 能重初雄

受付・誘導係 稲葉睦子

金木庸一 田中昭一 能重 隆

堀海栄子 姫松信子 前田瑞枝

御懇志係 朝倉和利 田中昭一

駐車場と幕係

青木敏夫 足達 崇 明石圭司

明石義久 石井和夫 狩野昌也

久保田勇 重田和夫 高梨維夫

高梨教夫 田村徹夫 田村 本

富永昇一 廣嶋敏雄 三堀 清

慰勞会進行役 青木敏夫

お斎(食事)係 田中久恵

能重恵利子 能重志津子



お斎(とき)の準備

水島先生法話を聞くにあたって

副住職 井上泰之

親鸞聖人は、法然上人に一生涯聞法した。師はただ一人である。色々な先生に話を聞けばいいのではない。その一人の師に真宗の教え(我が人生に満足すること)を深く聞き抜くことが要なのだと思う。だから一回聴いて終わりではない。何度も何度も、繰り返し聞き続けなければならぬ。聴聞は止まないのだと思う。

私は先生を慕う。しかし、時に刃を向ける。腹が立つて仕方ないと思うことさえある。それでも離れないのは、自分の業(ごう)が丸ごと扶(えぐ)り出されるからだと思う。そこには、自分では求め切れない満足心がある。自分を取り繕(つくろ)わなくていい身軽さがある。だから、本当の満足を求める道(求道)を止めてはならないのだと思う。

私と寺との関係、つまり私が寺を背負っていくということは、聞法を外してほかにない。それは寺を聞法第一の場にしていくということである。だから今回の法話会も一回きりで終ってしまったら何にもならない。何度も、繰り返し、先生に来ていただきたいと考えている。今しかないのである。

「御俗姓(ごぞくしょう)は、親鸞聖人の教えを聞き抜いた蓮如上人の仰せです。それを副住職が詳読し、皆でいただきました。」



親鸞聖人を尋ねる京都北陸の旅



前が本堂の阿弥陀堂、奥が親鸞聖人が「今現在説法」されている御影堂(ごいどう)です。詳細は、お尋ね下さい。

行事予定

1月2日 10時〜 修正会

1月8日 9時〜 八日講十日講

1月18日 親鸞教室

1月26〜28日 東京教区報恩講

2月4日 5日 水島先生法話会

2月未定 桜の苗木植樹

2月12日 14時〜 同朋の会

3月10日 親鸞教室

3月20日 10時〜 春彼岸会

4月2日 13時 30分〜 花まつり

5月7日 14時〜 同朋の会

5月15日 親鸞教室

5月22日〜24日 千葉組団休参拝旅行

6月4日 9時〜 八日講十日講

6月9日 同朋の会

6月12日 婦人研修会

6月25日 8時 30分〜 奉仕作業

6月25日 8時 30分〜 奉仕作業

※・・・以外は当寺が会場です。